

雜 錄

鋳力板に對する考察

(大正十四年十一月五日編) 玉 井 不 識

第壹章 鋳力板の名稱に就て

第貳章 鋳力板の寸法に就て

第參章 我國に於ける製造の起原及現狀

第四章 鋳力板に對する保護政策

第壹章 鋳力板の名稱に就て

我國に於ける鋳力板の需要額は大約 65,000 噸にして石油罐及び罐詰用を最とし菓子罐其他玩具容器並に包裝用として使用せられ殊に最近は製罐工業の勃興により需要著しく年々増加の趨勢に在り之を 14 吋× 20 吋 107 封度のベースボックスに換算せば 136 萬函餘にして年額約 2,100 萬圓の巨額に達す而して其の多くは英米二國より供給を仰ぐものであつて内地製品は僅々八幡製鐵所に於て目下年額 7,000 噸を産するのみで輸入額の約 1 割 1 分に過ぎない。

抑々我國に鋳力板が輸入せられたのは明治 14.—5 年頃であつて當時は主として英國より輸入せられ米國品の入津は明治 35 年頃からの事である、即ち歐洲戰亂以前に於ては米國製の鋳力板は光澤其他も英國品に劣つておつたが戰亂の勃發と共に漸次歐洲向食料罐詰其他の用途の爲め著しく需要を喚起し英國のサウスウエールズより優秀なる技師を聘して品質を改良し豊富な而も純良なる原鑛を使用し大規模製産の下に規格を統一して以て一大改良を達成した結果今日に於ては英國物より上値に取引せらるゝ實狀である。

鋳力板の名稱に付ては之を大別せば

- | | |
|--------------|--------|
| (一) Coke | コーク |
| (二) Charcoal | チャーコール |

の二種となる而して我國に於ては僅かに輸出蟹罐詰等にチャーコールが使用せらるゝ位のものであつてコーク板及び其の以下の物が主として使用せらる。

鐵板に錫鍍金して鐵の酸化を防ぐ即ち鋳力板を作ると云ふ事は 1620 年以前に獨逸サクソニヤ地方にて發明せられたもので其の後 1672 年に英國人に依つてサウスウエールズ地方に持つて來て同地方がコンオールの錫鑛山に近く交通の便に富み加ふるに石炭の産出豊富であると云ふ所から該工業の基礎が置かれ次で 1678 年製鋼法が發明せられて一大發展を成したものであるが當時製鐵法が幼稚であつた爲めに石炭で作るよりもチャーコール即ち木炭を燃料として薄鐵板を作る方が炭素分が豊富で熱

量が多い關係上良好なる鐵板が作られると云ふ點からコークよりもチャコールの鍍力板が上等なりとせられたのであるが現今に於ても大體右の概念の下に區別せられる、然し嚴格に言へば鍍金せられた鍍錫量の相違を示す名稱に過ぎるものであつてコークは寸法 14"×20"、100 封度、入數 112 枚入の物で 1.2 封度から 2 封度の錫が鍍けられチャコールは 4 封度の錫が鍍金せられておる。

Bwg 36 番以下の薄鍍力板に對しチャーコールと稱する者あるも之は誤りにして英米とも斯かる鍍力板に對しては特に Tagger (タツガー) なる名稱を附しておる。

錫鍍金部にて仕上りたる鍍力板は選別室にて鍍金の良否、寸法の正、不正及板面が平なるや浪を生じ居るや等を検査し其の程度によつて種々等級を作り鍍力包にし木函に入れ右の等級の記號を函の側面又は上部に附し輸出するもので英米兩國又會社により多少名稱を異にするが大様左の如く區別せらる。

第一 英 國

(一) I. C. Cokes	アイ、シー、コークス
(イ) I. C. W.	アイ、シー、ダブリユウ
(ロ) Wasters	ウエスターズ
(ハ) Waste Waste	ウエースト、ウエースト
(二) I. C. Best Cokes	アイ、シー、ベスト、コーク
(三) Common Charcoal	コンモン、チャーコール
(四) Charcoal A.	チャーコール、エイ
(五) Charcoal AA	チャーコール、ツー、エイ
(六) Charcoal AAA	チャーコール、スリー、エイ

(一) I. C. Cokes

之は選別した結果良好なる板に附した名稱であつて我國に於てはアイ、シー、コークと稱しておるが本來はファースト、コンモン、コーク即ち第一の普通板と稱すべきもので鍍金良好寸法正しき平なる板であつて一般罐詰又は石油罐、菓子罐、茶、珈琲の容器、口金等に使用せらるアイ、シー、エル I. C. L. なる板があるが之は單に同寸法で重量が軽いと云ふ事を示すだけのものであつて品質はアイ、シー、コークと何等異なる所がない但し英國に於ては 14"×20" の板で 112 枚入 108 封度の鍍力板を I. C. なる記號を以て表はすことあれば注意を要す之を要するにアイ、シー、コーク板は選別及取引上の基準を示す板である英國に於ては右の 108 封度を以て基準相場が立てられ他の板は之に打歩を加減して取引せらる。

(イ) I. C. W.

此は上等板と劣りたる板とが混じおるものにして其の割合は不定なるも大凡ウエスターが 2—3 割這入つてゐる菓子罐、茶罐其他玩具、印刷等深く搾らざるものに使用せらる。

(ロ) Wasters

ウエスターズ即ち不良板と稱するものゝ程度は鍍金が一様に圓滑に行かず所々に斑點があり又は少なきキズが在り小端に缺けがあると云ふ様な板であるが此等は其の斑點なりキズを切斷して取除けば毫もアイ、シー、コークと異なる所なく全く同一程度のものであるが故に屑板と稱すべきものではないが不充分なる板で使用上手敷を有する關係で一般向ではなく値段も安く罐詰には全然不向であるが玩具及安罐等に使用せらる。

(ハ) Waste Waste

此はウエスターズより一段劣つた板であつて小端缺け寸法不同、鍍金不良、波を生じ居り所謂短柵と稱する様な板であつて硬質にして切落屑板とも稱すべく餘り用途もなく裸のまま木函に入れ在り。たゞ値段が非常に安い所から使用すると云ふ程度に止つておる。

(二) I. C. Best Coke

此の種の板はアイ、シーより上級なる板であつて錫鍍金量も多少多く寸法も正しく完全なる板にて酸性に富むパインアツプル又は重き罐詰其他搾りて用ゆるとか高級印刷を施すと云ふが如きに適當したるものにして最近英國に於て米國風の製造方法を採用しておる會社にては I. C. Prime アイ、シー、プライムなる記號を附すものあり其の程度は略ぼ此のベストコークと同一である。

第二 米 國

(一) Prime Coke	Prime Coke Only Prime Seconds	プライム、コーク	プライム、コーク、オンリー プライム、セカンド
(イ) Unassorted Cokes		アンアツソウテツド、コークス	
(ロ) Wasters (Seconds)		ウエスターズ (一名セカンド)	
(ハ) Waster Wasters (W.W.)		ウエスタ、ウエスターズ (略名ダブダブ)	
(二) Canner Special Cokes		カンナー、スペシャル、コークス	
(三) Charcoal A		チャーコール、エイ	
(四) Charcoal AA		チャーコール、ツー、エイ	
(五) Charcoal AAA		チャーコール、スリー、エイ	

(一) Prime Coke

米國のプライム、コークは英國のアイ、シー、コークと同一にして先に述べたる如く鋳力板製造發達の道程としては 1890 年以前に於ては米國は殆んど全部英國より輸入を仰ぎつゝありしも同年所謂マツキンレー關稅を制定し輸入稅を 5 割に引上げ極力内地鋳力工業を奨勵した結果今日の殷盛を來たし英國の 1 ヶ年製産高 1510 萬函に對し 2930 萬函を製造することを得るに至りて世界第一位を占めつゝあり従つて英國の傳統的名稱を廢しプライム即ち最良なる名稱を附したるに過ないので何等アイ、シー、コークと異なる所がない。

然しながら製造會社に依つては自己の社名を冠してプライムなる事を示すものがある代表的大會社

であるユーニス製鋼會社のアメリカンコークス (American Cokes) の如きデヨンス、アンド、ラフリン會社のヂエー、アンド、エル、コーク (J & L Coke) の如き之である。

プライムコークには二種あつて上等なる板のみのもとの多少の程度の劣る板の混しおるものとに分たれる即ち會社により木函にはプライムと記號を附し内にセコンド (Seconds) と印刷したる小紙片を挿入し以て後者たることを示すものがある。

プライム、コークの用途は英國のアイ、シー、コークと等しく一般罐詰用及石油罐、其他容器、搾り物用として廣く用ひられ又取引上の基準を成す但し寸法 14' + 20" で 112 枚入 107 封度の物を IC なる記號を以て表はす事は英國の 108 封度と等しく注意を要す。

(イ) Unassorted Cokes (U/A)

此の板は選別せざる板に付したる名稱であつて故にプライムとウエスターとが混じり居り其の割合は大凡プライムが3割5分ウエスターが1割5分と云ふ事になり居るも其の時の出來具合に依りて必ずしも然らず選別の手數を除く丈けプライム、コークに比し安値なるも其品質上の差違に於ては大したる變化なし、此の板に對しては製造會社名の後部に U/A なる記號を附し又其用途は略ぼ「プライム」に同じ

(ロ) Wasters (Seconds)

普通我國に於て二級品と稱しおるものにして英國と同様鍍金不良寸法正しからず艶の悪き板なるも品質上より云へば英國のアイ、シー、ダブリユウと程度略ぼ等しく價格も安く普通玩具及高級ならざる印刷、菓子罐等に供せらる。

(ハ) Waster Wasters (WW)

此は英國の其と同様硬質にして鍍金不良、斑點著しく寸法不同及び切落屑板の混合名稱にして用途も同様である。

(ニ) Canner Special Cokes

此の板はプライムとチャーコールとの中間に位し酸性に富む果實又は重き罐詰高級印刷用として使用せられ従つてプライムより稍や高値なり米國に於ての取引標準はプライム、コークの 100 封度を以て建値とす。

(三) Charcoal A

チャーコールなる名稱は英米とも同一にして鍍錫量も多く品質も柔軟にして純良なるものにして高級なる金具又は容器及價格の高き罐詰用に供せらる我國に於ては極く薄き鍍力板をチャーコールと稱し居る者現在あるも此は以前薄鍍力板にチャーコールなる名稱を附したるもの輸入せられたる所より斯かる名稱を誤稱するに至りたるものと思ふせらる、然しながら先にも記述したる如く鍍錫量も比較的多き板に附したる名稱にして A を増す毎に其の量を增加するものとす

第二章 鍍力板の寸法に就て

英米に於ける鍍力板の基本寸法は 14" × 20" 及び 20" × 28" の兩種であつて他の寸法の物は之をオツ

ズサイズ即ち寸違物と稱して居るが石油罐用としては所謂オイルサイズとして英米とも一定であつて胴板としては 14"×18 3/4" の板を用ひ天地板としては 10"×20" の物を使用する、八幡製鐵所に於ても目下各月約100噸程を製造してゐるが重量は左表の如く多少の差違が在る。

英國

ゲージ	寸 法	枚 數	正味重量(封度)	14"×20" にせば
B. G. 29.9	14" × 18 3/4"	124	110	108
" "	10" × 20"	225	156	108

米 國

ゲージ	寸 法	枚 數	正味重量(封度)	14"×20" にせば
U. S. G. 30	14" × 18 3/4"	124	110	107
" "	10" × 20"	225	153	107

八幡製鐵所製

ゲージ	寸 法	枚 數	正味重量(封度)	14"×20" にせば
U. S. G. 30	14" × 18 3/4"	124	110	107
" 29	10" × 20"	224	153 1/2	107

備 考 { B. W. G. は Birmingham Wire Gauge の略號
 B. G. は Birmingham Sheets and Hoop Iron Gauge の略
 U. S. G. は United State Gauge, の略

而して我國に輸入せらるる石油罐用鋳力板は米國製が主であつて1ヶ年の消費量日本石油株式會社のみにて大正13年13,500噸なれば全部にて大約2萬噸に達するものと考へらる。

次に一般向の鋳力板に對しては

(一) 英國

B.G. 記號	封 度	一枚の厚きm/m	寸 法	枚 數	總重量(封度)
33.1	75	0.218	14"×20"	112	80
32.5	80	0.234	"	"	85
32.0	85	0.249	"	"	90
31.6	90	0.262	"	"	195
31.1	95	0.277	"	"	100
30.6	100	0.290	"	"	105
29.9 IC	108	0.315	"	"	113
23.0 IX	136	0.397	"	"	141
26.3 IXX	156	0.454	"	"	161
33.1	150	0.218	20"×28"	112	160
22.5	160	0.234	"	"	170
32.0	170	0.249	"	"	180
31.6	180	0.2 2	"	"	190
31.1	190	0.277	"	"	200
30.6	200	0.290	"	"	210
29.9 IC	216	0.315	20"×28"	112	223

28.0 IX 272 0.397 20"×28" 1.12 292

(二) 米國

U. S. G記號	封度	寸法	枚數	總重量(封度)
33.0	8.0	14"×20"	112	85
32.0	8.5	"	"	90
31.5	9.0	"	"	95 (20"×28" #33以上は14"×20"同様に付き略す)
31.0	9.5	"	"	101
30.5	10.0	"	"	106
30.0 IC	10.7	"	"	113
28.0 IX	13.5	"	"	142
27.0 IXX	15.5	"	"	163
33.0	16.0	20"×23"	112	170

I.C なる記號は1枚の厚み 0,315 ミリメーターにて112枚入即ち面積 31.360 平方呎、重量 108 封度 (米國は 107 封度) の厚みを表はす記號であつて ICL なる記號は右より 8 封度 (米國は 7 封度) 輕きことを意味し此以上 L を附するときは1個の L は5封度輕きを示すものである、IX なる記號は IC より 28 封度重きことを示す以後 X を増す毎に 20 封度を増加するものとす。

斯の如くにして英米とも一般向のものは 14"×20" 物及び 20"×28" 物のものであつて我國に輸入せらるゝ鍍力板も石油罐用を除き大部分右寸法のものにして前者を二枚掛後者を四枚掛と呼稱しておる、14"×20"寸法の物を二枚掛と稱するは初めて鍍力板が輸入せられた當時 14"×10" の寸法の物があつた所より斯かる名稱を附するに至つたものである而して紡織方面其他特殊向の爲めに 3'×6' にて B WG 18 番より 28 番位迄の鍍力板が輸入せらるゝが此量は少量で多く英國製である。

今我國に輸入せらるゝ主なる鍍力板を右の如き二枚掛、四枚掛に分類して列記すれば次の如し。

(一) 二枚掛 (14"×20")

封度	枚數	ゲージ B.W.G.	厚さ			一兩の重量			一枚の重量	
			耗	厘	1"/1,000	和斤	貫	匁	匁	匁
80	224	37	0.12	0.34	4	60.5	9.676	36.3	43	0.162
170	"	32	0.24-0.25	0.80	9-10	128.5	20.560	77.1	92	0.344
90	112	31 1/2	0.26	0.84	10	68.0	10.886	40.8	67	0.365
100	"	30 1/2	0.28	0.92	11	75.6	12.095	45.3	108	0.404
107	"	30.0	0.30	1.00	12	80.0	12.943	48.5	116	0.435

(二) 四枚掛 (20"×28")

封度	枚數	ゲージ B.W.G.	厚さ			一兩の重量			一枚の重量	
			耗	厘	1"/1,000	和斤	貫	匁	匁	匁
170	112	32	0.24-0.25	0.80	9-10	128.5	20.560	77.1	184	0.688
110	"	36	0.15	0.42	5	83.2	13.305	49.9	119	0.445
200	"	30 1/2	0.28	0.92	11	151.2	24.190	90.6	216	0.808
224	100	29	0.33	1.09	13	163.3	27.095	101.6	271	1.016
"	90	28	0.37	1.22	14-15	"	"	"	312	1.169

224	80	27	0.43	1.42	16--18	169.3	27.095	101.6	339	1.269
"	70	25	0.52	1.72	20--21	"	"	"	387	1.449
"	60	24	0.60	1.97	23--24	"	"	"	452	1.695
"	50	22	0.75	2.47	29--30	"	"	"	542	2.038
"	40	20	0.86	2.85	33--35	"	"	"	677	2.535
"	30	18	1.16	3.86	45--47	"	"	"	903	3.382
"	20	16	1.55	5.19	60--63	"	"	"	1,355	5.074

(注意) 以上の二表は現物に付 1/1.000 メーターを以て計りB.W.Gに當てはめたるものにして一函の重量は正味なり

右の内輸入せらるゝ數量は 170 封度最も多く 100 封度之に次ぎ其の割合は約 5 に對する 2 乃至 3 の比なり 224 封度の厚板は瓦斯計量器、牛乳罐、アルコール罐、其他建築金具搾り物用等に使用せられ 1 ケ年の輸入額大約 2,000 噸位と考へらる而して 170 封度以下の薄鉄力板は輸出向箱の内張り又は中蓋其他電話電信の部分品小間物用として使用せらるゝに止まり 其の數量は僅少である

第一表 輸入鉄力板の數量及價格

明治 29	2,584(噸)	250,963(圓)	大正 1	25,715(噸)	4,274,498(圓)
" 30	5,534	559,910	" 2	26,486	4,603,305
" 31	4,012	441,421	" 3	26,119	4,010,274
" 32	3,947	569,923	" 4	26,707	4,792,181
" 33	4,597	832,149	" 5	39,305	10,083,698
" 34	5,521	884,089	" 6	26,848	11,725,622
" 35	4,856	797,089	" 7	29,319	20,836,713
" 36	6,443	972,625	" 8	37,336	17,515,565
" 37	18,116	2,706,769	" 9	49,399	20,390,629
" 38	30,226	4,698,063	" 10	43,128	13,714,233
" 39	3,530	539,433	" 11	57,458	14,485,991
" 40	7,599	1,288,107	" 12	55,343	14,208,901
" 41	16,455	2,513,250	" 13	71,427	20,723,101
" 42	22,708	3,277,803			
" 43	21,559	3,294,814			
" 44	25,367	4,287,142			

次に八幡製鐵所に於て製造せられつゝある鉄力板は石油罐用を除く一般向のものに對しては次の如

くであつて目下四枚掛厚板は 80 枚入のものを限度とし以上のものは未だ製造に着手せず

八幡製鐵所製鉄力板の寸法厚み

U.S.G.	厚さ(耗)	寸法	枚數	正味封度
33	0.238	14" x 20"	224	170
31	0.278	"	112	100
33	0.238	20" x 28"	"	170
31	0.278	"	"	200
29	0.357	"	100	224
27	0.437	"	80	"

(#29 #27 及び四枚掛#)
31は一函56枚入

而して右品質上の區別に對しては一級二級三級に分たれ木函の側面に「アラビヤ」數字を以て等級を示してある。

第三章 我國に於ける製造の起源及現状

鉄力板の製造が機械的に初めて着手せられたのは大正8年東京鉄力製造株式會社が錫鍍金機械を米國より輸入して着手したのを初めとす、然し當時に在つては輸入した原板に錫鍍金を爲すと云ふだけのものであつたが僅々1,000餘函で採算に堪へず中止をして終つた其後10年7月日東製鋼株式會社が獨逸人の技師及び職工長を招聘して原板の壓延作業から鍍金迄の作業を開始したが財界の不況に禍せられ多大の費用を投したに不拘不成功に終り遂に工場を閉鎖するに至つた。

八幡製鐵所は歐洲戰亂の勃發と共に我國に輸入せらるゝ鉄力板が英米兩國に於ける價格の高騰及び輸出制限の影響を受けて輸入の困難且つ價格の暴騰したるに鑑み一は國家政策より一は經濟政策の見地より自給自足の要あるべきを痛感し偶々日東製鋼株式會社の中止したるに會し其機械一切及び獨逸人技師を譲受け大正11年6月初めて鉄力板の原板たる黑板の試作を行ひ翌12年4月鍍錫作業に成功し6月より成品を市場に出すに至つたものである。

斯くして其後米國より機械を輸入し大正14年5月には鍍錫機を5臺に増加し大正15年度には12,000噸16年度には壓延機を6臺鍍錫機8臺を備へ15,000噸を生産する豫定の下に目下各月6—700噸位の製品を市場に出しておる。

第二表 八幡製鐵所の生産額

月 別	十二年度	十三年度	十四年度	月 別	十二年度	十三年度
四 月	— 噸	370.744 噸	651.509 噸	十 一 月	209.455 噸	447.937 噸
五 月	—	382.666	617.704	十 二 月	193.499	409.454
六 月	38.655	369.391	739.369	一 月	225.201	338.522
七 月	105.562	257.347	539.763	二 月	322.760	566.017
八 月	107.296	236.860	—	三 月	362.738	553.896
九 月	125.397	420.553	—	合 計	1,869.991	4,789.806
十 月	179.428	371.419	—			

而して其の製品を英米品に比較するに外觀寸法厚み等に至つては未だ米國品には及ばないのであつて厚み不同寸法も米國品程に整然となり居らず品質はさのみ相違を認めざるも多少ムラの在る様感ぜらる事實製品の成績も大正13年度迄は良好とは言ひ難く次表の如き結果である。

大正十三年度製鐵所生産高及び各級別

級 別	數 量(噸)	割 合
1	1,540.469	32 %
2	2,937.040	61 %
3	280.325	6 %
疵 物	31.972	1 %
計	4,789.806	

然しながら最近の製品は非常なる進歩を成し英國品と同等に認め得らるゝ様になりたるが故に米國品に比し遜色なきに至るのもさまで遠からざる事と思做せらる、斯の如くして我國に於ける鍍力板製造の基礎は八幡製鐵所に依つて初めて築かれたる次第なるが現在に於ても國內需要を充足するだけの設備の爲めには八幡製鐵所と同設備の物が八社程を要する理であつて我國に於ける人口問題に關聯せる食料燃料問題より之が貯藏防腐に鍍力板が至大の關係を有するは明かであつて益々其の需要を増加すべきは自明の理であるが故に之が自給自足を圖るの要あるは單に一朝有事の際の國家政策上の見地からばかりでなく國民の經濟生活の上よりしても緊急なる必要事である。

鍍力板が世人の腦裡に多少印象さるゝに至つたのは大正14年3月の日英通商條約の廢棄の時からであるが現在に於ても此の方面に對する調査研究は不充分であつて其の用語又は價格の基準等も區々にして官廳に於ては葉鐵又は鐵葉板なる名稱を用ひ民間に於ても鍍錫板又は鍍力板なる文字が交互に使用せらるゝ状態にて取引上の基準相場も東京商業會議所の如きは現今餘り多く輸入せられざる90封度を以てするが如きである此等は用語としては一般向なる鍍力板なる文字を用ひ相場上の基準としては需要の最も多き二枚掛170封度か或は米國同様100封度にすべきである。

而して如何にせば鍍力板工業をして盛ならしむることを得るや發展策如何と云ふことになるが鍍力板製造は其の原鋸たる薄鐵板を製造することが已に製鐵作業中の最難事であり其の鍍錫作業も熟練なる技術を要する點より目下の原料、技術、勞働條件にては其の生産原價も勢ひ高からざるを得ず到底現下の状態にては英米品と競争することは不可能にして壓倒せられざるを得ないのである、取調べたる所にては現在製鐵所の鍍力板一噸當り生産費は380圓弱なるが故に二枚掛170封度壹函を少くとも金29圓以上に賣捌かざれば採算上收支償ふことを得ず。

米國製170封度が目下の先物輸入値段26圓50錢見當なるが故に現行の關稅16貫匁70錢にては他に特別なる保護援助なき限り到底一營利會社のよくする所ではなく之が開設發展を計る事は關稅の改正に依るかさなくば補助獎勵の方策に俟たざるを得ないのである。

第四章 鍍力製造に對する保護政策

英國に於ける鍍力板發達の道程並に米國に於ける保護政策實施に依る一大發展を記述することは我國の該工業を開設發展せしむる方策に大なる參考となるべきに付左に述んに

英國

英國に於ける鍍力板製造は目下其の工場420に達し70の會社に依りて支配せらる其の中心地は「南部ウェールズ」地方であつて「カーディフ」港を中心として50哩の半径内に集中せられておる大正12年に於ける1ヶ年の生産額は107封度の「ベースボックス」に換算して1,510萬函(71萬9,000噸強)に達し内、輸出量は1,140萬函(52萬4,000噸弱)即ち生産額の7割5分に達し其の金額約1億2,600萬圓(平價計算)に達す而して其の仕向國は貿易局の報づる所に依れば16ヶ國に亘るの盛

況である。

對日本輸出數量及價格次の如し。

大正10年度	21.807噸	金額715.291磅
大正11年度	17.285噸	金額389.932磅
大正12年度	37.648噸	金額853.181磅

斯の如く進歩發展をなしたる原因は此の地方が「コンオール」の錫鑛山に近く石炭の産出豊富にして加ふるに交通の便に富む等鋳力板製造に對する諸條件を具備したる絶好なる位置を占め居ることが最大なる原因であるが然も其の初期に於て即ち 1672 年に創始したる時より 1720 年に至る迄は大なる進歩發展は爲し得なかつたのである。而して今日上記の如き發展を爲したる所のものは政府の善導其の宜しきを得て一致協力の下に此の大成功を獲得たのであつて大正12年2月より大正13年8月に至る18ヶ月間のみで其の輸出設備の爲めに1億5,000萬圓(平價)の巨額を費したるを見れば如何に努力を爲し居るやを知ることを得べし。

米國

翻つて米國を見るに該工業の歴史的第一歩が始つたのは 1872 年に「ペンシルバニヤ」州の「リーチパーク」に於て「ウィリアム、ロージャス」及び「バーチフィールド」の兩氏に依つて建設せられたる「リーチパーク」會社とす、同社は順次規模の擴張を計り同州「アポロ」に二工場翌年は更に「デナムラー」に2ヶ所「オハイオ」州の「ウエルスヴイル」に1ヶ所の工場を設けたるも偶々同年經濟界の恐慌に會し一大苦境に落入り事業を縮少して漸く 1874 年迄は漕ぎ付けたるも遂に作業を繼續することを得ず一時中止の止むなきに至つた。

當時に於ける鋳力板の輸入數量は數十萬噸の巨額にして主として英國より輸入を仰いでおつたのであるが其の關稅率は當時としては極めて低率であつて充分之を保護するに足らず、のみならず米國內の勞銀其他の生産費は英國の共に比し著しく高かつた爲めに常に外國品に壓倒せられ其後數年間は鋳力製造工業は斷念するの止むなきに至つたのである。

然るに 1889 年の冬に至つて「ウィリアム、マツキンレー」が下院に於ける實行委員長であつた時に僅々二票の差を以て關稅法規を制定することに成功し鋳力板に對しては今後6ヶ年間に國內消費の1/3を自國內にて製造するに至らざる時は以後無稅にするとの公言の下に5割の關稅を課して保護政策を實施するに至つた此處に於て多數の事業家は相競ふて鋳力製造を開始し國內到る所に新工業の確立を見るに至つたのであつて萬一此の法案が否決せられたる時は今日の如き鋳力板工業の殷盛は未だ見ることが得なかつたことと考へらる。

第三表 米國に於ける鋳力板年産額

年 度	數量(噸)	年 度	數量(噸)
1891	999	1893	55,182
1892	18,003	1894	74,260

1895	113,666	1897	256,698
1896	160,362	1898	326,915

其後 1893 年の春「クロバー・クリーブランド」が選舉せられた後、新たなる實行委任會は政治的關係より鉄力板の關稅を以前の率即ち 1 封度に付 1 仙に値下を爲した其の結果として此の新工業は又もや以前に經驗した如き苦境に落つた此處に於て各會社は夫々合同をなして生産費の低下を圖り當面の不況を脱することに腐心した。

次で 1896 年迄の間「ウイリアム、マツキンレー」が大統領であつた時に「デイグレー」法案として知られたる一つの法案が兩院を通過したが此の法案は米國に於ける鉄力板製造家を保護する爲に高率なる關稅を課したので此の時から該工業は長足の進歩をなし僅々數ヶ年に於て英國を凌駕するに至つたのであつて 1896 年に 16 萬 300 噸強の製造高なりしも翌年に於ては一擧にして 25 萬 6,700 噸弱に達し一方英國よりの輸入額は 1896 年に 14 萬 3000 噸強なりしものを 1897 年に至り 8 萬 5000 噸餘に減少せり。而して大正 12 年に於ては其の製造産額 139 萬 5,000 噸に達するの盛況を呈しておる。

第四表 米國鉄力板生産高表

年 度	數量(噸)	年 度	數量(噸)
1895	113.666	1910	722.770
1896	160.362	1911	783.960
1897	256.698	1912	962.971
1898	326.915	1913	823.719
1899	360.875	1914	867.047
1900	379.665	1915	982.954
1901	399.291	1916	1,139.386
1902	360.00	1917	1,443.444
1903	480.000	1918	1,435.825
1904	458.000	1919	1,074.624
1905	493.500	1920	1,374.977
1906	577.562	1921	747.921
1907	514.774	1922	1,203.772
1908	537.087	1923	1,414.403
1909	611.959		

第五表 英國より米國への鉄力板輸出高表

年 度	數量(噸)	年 度	數量(噸)
1890	321.109	1897	85.472
1891	325.143	1898	65.338
1892	278.478	1899	63.546
1893	255.603	1900	58.040
1894	226.880	1901	75.822
1895	222.901	1902	65.142
1896	143.049	1903	50.674

右の如く米國が鉄力板製造に急速なる發展を爲したる所以のものは國內に其の進歩に沿ふべき原鑛の豊富なりしにも依るべけれども其の最大なる原因は高率なる保護關稅を實施して内地製造業者の徹底的援助獎勵を圖つたが故である。

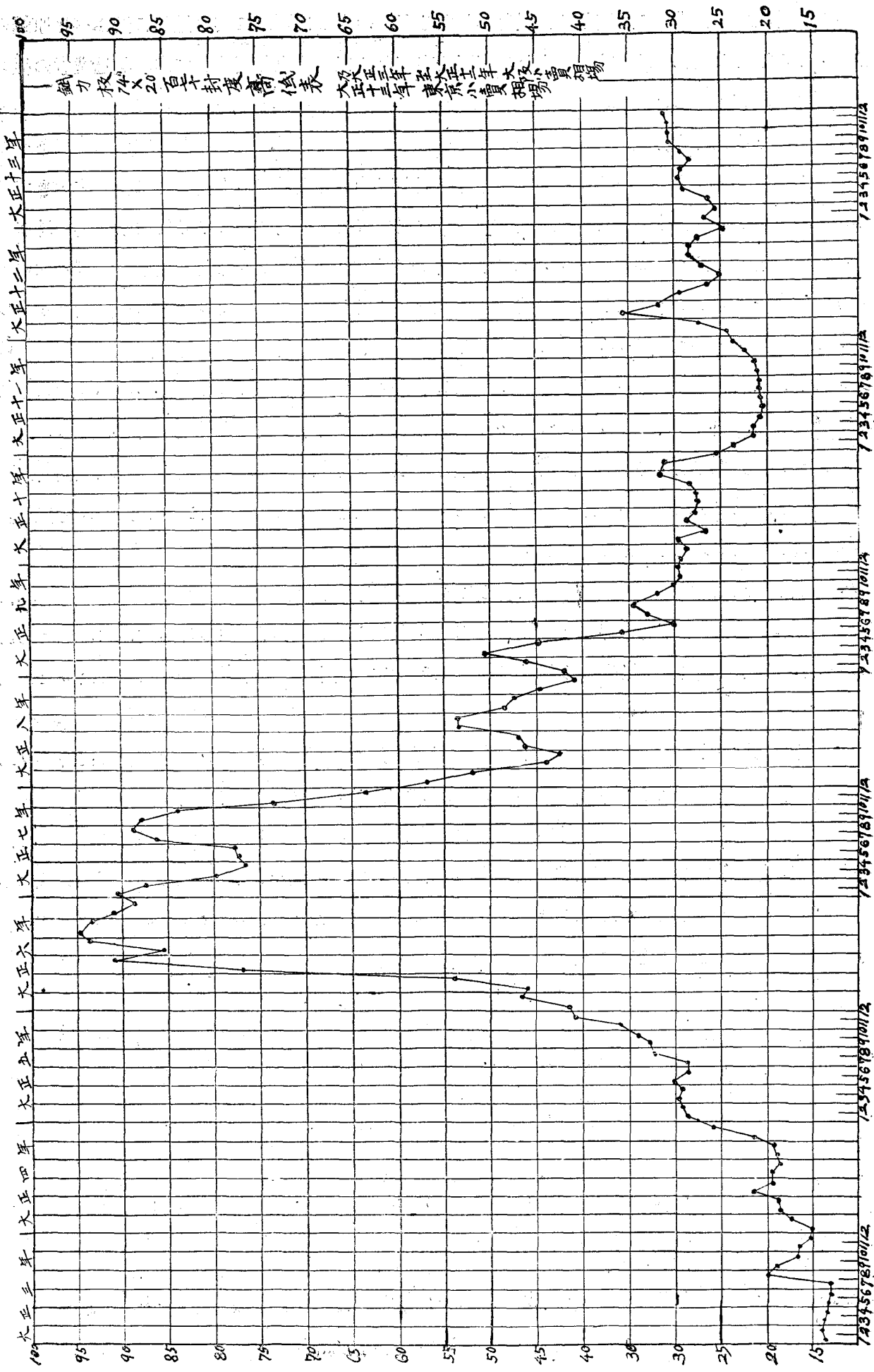
故に我國に於ても該工業の開設發展を計る爲には現行100和斤70錢の關稅を改正すべきであつて此の意味に於て大正14年3月10日の日英通商條約廢棄と同時に國定稅率の1割5分に復歸すべきであつたのである然るに日本石油會社及一般罐詰業者の猛烈なる反對運動に因つて政府は未だ其の時機に達せずとして暫定稅率として従前通り100和斤70錢に据置きたるは甚だ残念なる次第にして米國の如く5割の關稅を課することは現下の如き該品の製造設備に乏しき製鐵狀態よりせば一般消費者の負擔をして徒らに重からしむる點あるが故に妥當ではないが少くとも從價の1割5分に値上げすべきものであつて斯くせば沖着値段は英國品二枚掛170封度24圓とせば之に課せらるる關稅は3圓60錢にして荷揚費其他を30錢と見れば合計27圓90錢となるべし斯くては尙目下の内地生産費1噸當380圓(170封度29圓20錢)よりも1函に付1圓30錢外國品の方が安値なれば不引合ならざるを得ないが内地生産費は噸當り350圓に低下せしむることは方法の如何に依り可能なりと信するが故に之に成功せば170封度1函26圓90錢となりて初めて英國品と競争することを得るのであつて斯くて初めて内地の鉄力板工業を開設し八幡製鐵所と相俟つて其の基礎を確立することを得るのである。

然も右沖着24圓は將來外國爲替の高騰に依りて22-3圓に迄なるべき可能性あるが故に此の點を考慮する時は尙ほ相當の危険を負擔せざるを得ざる次第であつて1割5分の關稅は決して高率なりとは言難いのである。

然らば1割5分の課稅として罐詰及び石油罐に對し如何なる影響を與へるやと云ふに二枚掛170封度(224枚入)にて罐詰の一封度罐は164個を製作することを得るものなれば1割5分關稅に依る1罐の負擔金は現行稅率に比し價格にて僅々3厘1毛の差額に過ぎないので其の製品の價格に比し殆んど問題ではなく寧ろ負擔の加重は外國品にのみ依頼する所より生ずる相場上の激變に因る方がより以上影響を與へるのであつて左の如く我國に於ける鉄力板の相場は動搖極りないのである。

第六表 鉄力板百七十封度過去十一年相場表

月	大正年	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
1	13.70	15.00	28.60	41.80	90.80	57.00	42.00	29.25	23.70	24.10	26.90
2	14.00	17.15	29.00	46.80	87.80	52.00	46.00	28.70	21.30	27.35	25.60
3	13.80	18.57	29.50	46.00	80.00	44.00	50.65	29.75	21.20	35.50	26.30
4	13.40	18.73	29.30	54.00	76.50	42.25	44.75	26.50	30.60	31.65	29.00
5	13.15	21.75	30.00	77.00	77.15	46.25	35.50	28.50	20.30	29.60	29.35
6	13.00	19.75	28.50	91.00	77.90	47.00	30.00	27.80	20.50	26.10	29.15
7	13.00	19.65	28.50	85.50	86.25	53.70	33.00	27.50	20.80	25.00	28.30
8	20.00	18.60	32.20	93.50	89.00	53.75	34.75	27.60	20.80	27.00	29.30
9	19.00	19.00	32.50	94.50	88.00	48.75	32.00	28.15	21.00	28.25	30.45
10	16.80	19.10	34.00	93.50	84.00	47.25	30.00	31.65	21.30	28.10	30.65
51	16.60	21.45	36.00	91.00	73.50	44.50	29.25	30.00	22.20	27.50	30.95
12	15.20	26.00	41.00	88.80	63.50	40.85	29.50	25.40	23.60	24.80	31.00
平均	15.14	19.56	31.60	75.30	81.20	48.10	36.50	28.30	21.45	27.92	28.91



而して石油罐用鋳力板に對しては先にも記載した如く特種寸法にして一般市場向ならず従つて多くの場合直接輸入をなして居るが其の5瓦倫入に對する所要枚數に胴板2枚天地板1枚で足り此が關稅の負擔金は現行稅率にて1錢3厘であるが1割5分課稅の時は胴板1函17圓天地板23圓60錢として5錢7厘となり4錢4厘の加重となるべし。

而して現行稅率に於ては外油に對する其の容器には課稅なき故「スタンダード」又は「ライジングサン」石油會社等に對抗する上に於て右稅率の引上は苦痛なりとせられつゝありて罐詰業者が反對する所のものは多少趣旨を異にしておるが現在八幡製鐵所に於て日本石油會社向として各月100噸程を製造し居ることを考慮するときは右の關稅引上に因る苦痛は一時的のものなるべくたつて其の要ありとせば容器に對し關稅上の手加減を加ふれば製油業其の物をも保護する結果に歸着すべし。

我が八幡製鐵所が僅々2ヶ年半にして英國品同等の製品を出すに至りたるは異狀なる進歩發展にして其の原板たる「シーツバー」の改良を達成せば米國品同様の製品を出すに至るは容易の伎なるが故に我國に於ける該工業の發展は充分なる可能性ある問題にして要は關稅を改正し鋳力板製造工業を獎勵する一途にあるのみ斯くして自給自足の域に達せんことは期して俟つべく國民經濟、生活に寄與する所蓋し偉大なるものであるべし。(完)

鞍山鉄鐵の實質 第1原料鑛石—鞍山鐵鑛の大部分は鐵分40%以下の貧鑛である。但し其鑛量は殆ど無盡藏であり、しかも採掘容易にして、鐵道幹線に近いと云ふ點は製鐵鋼國策上見のがす事の出来ない有力な條件である。我鞍山製鐵所に於て特殊の方法を發見し鑛鑪原料として理想的の人為富鑛に化する事が出來。しかも其が技術的にも經濟的にも確實であると云ふ事が内外多くの權威者に依つて立證せられ、既に當所は2ヶ年繼續、1,100萬圓の資本を以て貧鑛處理を基本とする製鉄工場の建設に着手し、近々全工事が落成し15年度よりは年産20萬噸を出鉄し様として居る。

第2 鉄鐵の品質—大正8—9年、創立當時の鞍山鉄は多少の非難もあつたが、而し其後幾多の改善を遂げ、12年以降の物は其の品質に於て他の多くの鉄鐵に殆ど遜色を見ないのである。加之從前の鞍山鉄でも之を巧に利用して一般の窺知せざる利益を擧げて居る製造工場もある。今左に創業以來の硅素含有量及12年以降の鞍山鉄の規格並に分析表を掲げん。

鞍山鉄硅素分析表 (月平均%)

年次	最高%	最低%	平均%	年次	最高%	最低%	平均%
大正9年	7.73	2.44	4.71	大正12年	3.60	2.10	2.55
10"	4.70	1.80	3.06	13"	3.30	2.30	2.53
11"	4.70	2.50	3.10	14" (9月迄)	2.73	1.74	2.30

鞍山鉄規格表

規格	全炭素 %	硅素 %	滿 俺 %	磷 %	硫 黄 %	銅 %
特1號	3.2—4.0	3.5—4.0	0.15—0.1	0.10以下	0.01以下	0
並1號	3.2—4.0	2.5—3.5	0.15—0.2	"	0.02以下	0
2"	2.8—3.5	2.0—3.0	0.15—0.2	"	0.04以下	0

3 #	2.8—3.5	2.0—3.0	0.15—0.2	〃	0.08以下	0
平爐銑	2.8—3.5	2.0以下	0.15—0.2	〃	0.05以下	0

鞍山銑分析表 (月平均)

年次	炭素%	硅素%	滿俺%	燐%	硫黃%
大正12年	3.46	2.57	0.18	0.085	0.40
〃 13〃	3.44	2.54	0.19	0.085	0.035
〃 14〃	3.60	2.30	0.22	0.085	0.039
燒結鐵80%配合	3.65	1.8—2.4	0.15	0.083	0.033

備考 尙燒結鐵 (貧鐵處理法による人爲富鐵) を使用し任意の成分及豫定規格の製品を製出する事は決して難事でない、將來需要最も多い平爐銑の硅素含有量の如きも 1.0 附近たらしむる事容易である故に製鋼原料としては益々良好の勢状を示すであらう

第3 銑鐵使用實績——製鋼原料としての鞍山銑使用の實績は茲に發表の自由を有たぬが、鑄物原料としての使用實績の要點を次に記して見様

(1) 當社沙河口車輛工場に於ける實績 同工場は從來各種の銑鐵を使用して居たが、鞍山銑出現以來これか使用を試み最初は種々の原因より可なり困難を感じたが次第にこれが利用に熟達し、第一鞍山銑の性質も日日改善統一せられたるを以て、特殊鑄物の外は鞍山2號銑及び平爐銑を主原料として充分なる成果を擧げつゝあり、且つ鋼鑄物には鞍山多硅銑の需要が次第に増加して居る。最近同工場の原料配合表を見れば此間の消息は一層明白である。

鑄物原料銑配合表(%)

製品別	鞍山一號銑	鞍山二號銑	鞍山平爐銑	鞍山多硅銑	車輛層	普通層	雲白銑	滿俺鐵 (銑に對し)
並鑄物	—	—	—	—	—	100.	—	—
小物	20.	20.	—	10.	—	50.	—	—
水壓物	—	40.	10.	—	50.	—	—	0.6
鐵管	—	30.	—	10.	—	60.	—	0.4
シリンダー	—	10.	60.	—	30.	—	—	1.0
ピストンリング	—	—	60.	—	40.	—	—	0.6
ブッシュ	—	10.	40.	—	40.	—	10.	0.6
ジャケット	—	50.	10.	—	30.	10.	—	0.6

(2) 鞍山製鐵所に於ける實績 同所最近1箇年の鑄物生産高は普通物 1,500 噸に達して居る。原料には12年迄は鞍山2號銑を主とし其後は鞍山混合銑を主とし荒銑、多硅銑等を配合して居る。しかも之れによる鑄造結果は(13年7月より8箇月間の試験)徑3"—24" 水道鑄鐵管鑄造の製品歩溜率は平均 80%に達し。之れを佐賀谷口、大阪久保田、又は釜石等の鑄鐵管工場に比して殆ど遜色を見ない。況んや普通鑄物に於ては鞍山2號銑、平爐銑、多硅銑等を用ひて何等の支障を感じない事が立證せられた。勿論鑄物作業たるや複雑困難なる作業工程を経て初めて完結するものなるを以て作業全般にわたる技術の巧拙は業績に重大なる意義を爲す。従つて單に原料銑鐵と鑄造結果とのみを對比論斷する事は決して妥當でない。製鋼作業に就ても同様である。只鞍山銑鐵を非難すべきものは滿俺の稍々少なきにあるも、之れも絶對必要ならば何時でも添加し得る。元來銑鐵は製鋼及鑄物の原料で、しかも單一銑種で

操業する事稀なるを以て、其の中の滿僱分は鉄鐵價值決定の絶對的要素ではなく、他に對應策は幾らでもある。事實上各所の鉄鐵は何れも滿僱分に對しては特殊的地位を有する。之れ適當なる滿僱鑛石が一般的に産出潤澤ならざる（特に我國に於て然り）に起因する。従つて滿僱分の稍々少なきを以て鉄鐵價值の大部分が左右せらるべきものでは決してない。

滿洲には鞍山以外に有力なる本溪湖製鐵所及廟兒溝鐵鑛があり此外に製鐵鑛業の重要原料たる石炭耐火材料等の産出及品質に於ても滿洲は日本内地の比にあらず、現に多量を内地に輸出して居る。

又主要製鐵鋼業地としての資格條件(イ)原料(ロ)資本關係(ハ)勞力(ニ)地理的關係(ホ)政治的安定(ヘ)國內に於ける政治的關係地位等の各項目に照し公平、精細に研究する時は我國策上滿洲以上に有力なる資格を具備するもの果して幾何。以上吾人あへて秃筆を呵し、製鐵鋼業より見たる滿洲の實情を訴ふるもの只大方識者の公正なる批判を請はんとするの外ならない。尙本稿の内容を質さるゝの士は左を一讀せられん事を望む（鞍山製鐵所製造課長梅根常三郎）

鞍山鐵鋼會雜誌第11—12 = 鞍山製鐵所貧鐵處理に就て、梅根常三郎△同第14號 = 鞍山製鐵所貧鑛處理に就て、俵工學博士△同第15號 = 本邦製鐵鋼國策樹立と南滿洲、梅野實△同16號 = 鑛物原料としての鞍山鉄鐵、水野利輔

獨逸經濟界概況の内石炭、鐵鋼産額表

ルール方面石炭採掘額（單位千噸）

年 別	労働時間	一月乃至九月間採掘額	一ケ年間採掘額	一ケ月平均採掘額
1913年	8時間	86.619	114.550	380
19	3月31日迄8時間 4月8日迄7時30分 4月9日より7時間	51.357	70.946	236
24	8時間	67.043	94.071	309
25	8時間	77.724	—	342
備考	1919年4月 1924年5月には同盟罷業行はる			

獨逸國鐵鋼産額表（單位千噸）

年 別	鉄 鐵 (月額平均 1.397)	1613 年を 100とし%	粗 鋼 (月額平均 1.476)	1913 年を 100とし%
1913	16.761	100	17.598	100
19	6.284	37	7.874	45
24	7.820	47	9.835	56
25	(一月乃至八月平均) 9.03	(65)	(一月乃至八月平均) 1.096	(75)

シンド州海上貿易概況之内鐵鋼の部 (1924年) 海外商報大正十五年一月十日(大正十四年十月二十日附在孟買渡邊領事報告) 本年鐵及鋼は本品に對する保護稅賦課ありたるに拘らず其輸入額 86.035 噸にして前年に比し 17.188 噸即ち 25%、價格に於て 2.518.000 留比即ち 17% の輸入増ありたるは注目に値す本年多量の輸入ありたるにはシンド・パンジャブ兩州の豪雨による被害の改築修理の爲めなり、英本國及歐洲對爲替有利たりしを以て比較的低廉の價格を以て輸入せられ印度製品の競争をして困難ならしめたり過去2年間の鐵及鋼の輸入額國別左の如し

國 別	輸入數量 單位噸	1923—24年			輸入數量 單位噸	1924—25年		
		對總輸入 噸%	價 格 留 比	對總價 格%		對總輸入 噸%	輸入數量 單位噸	對總輸入 噸%
英 本 國	20.992	35%	6,312.199	42	21.555	25	6,281.135	36
伊 太 利	172	—	44.991	—	41	—	11.259	—
瑞 典	165	—	109.976	1	150	—	92.496	—
諾 威	87	—	38.926	—	41	—	18.048	—
白 耳 義	35.036	50	5,389.987	37	47.310	55	6,988.395	41
米國(大西洋經由)	2.332	3	1,015.523	8	2.074	3	916.356	5
佛 蘭 西	368	—	48.332	—	1.106	1	143.197	1
和 蘭	861	1	174.530	1	2.370	3	446.733	3
ルクセンブルク	212	—	27.165	—	257	—	6.024	—
獨 乙	7.689	11	1,628.434	11	10.776	13	2,454.052	14
濠 洲	150	—	40.576	—	63	—	28.427	—
致 須	105	—	27.939	—	40	—	11.592	—
瓜 哇	1	—	50	—	—	—	—	—
其 他 諸 國	677	—	51.146	—	247	—	11.236	—
計	68.847	100	14,911.765	100	86.035	100	17,430	100

英本國は 1921年—22 同品市價暴落後多少の恢復を示し前年には各國輸入額中の首位を占めたるも本年は復々減退を示し前年輸入量の35%より25%に減退を觀たり英國製造業者は劇烈なる外國製品の競争に遭ひ其製品をして製産費或は同以下を以て販賣せざるべからざるに至れり然るに歐洲商人は英國品價格以下を以て處理せり白耳義は1921—22年以來多額の輸出量を示し前年には同國よりの輸出量第一位を占め同品輸入總量の50%を示したるに本年55%に増加し更に著しき進展を示す同國産製鐵及クルド鐵の戦前生産額を凌駕したるは注目し値す本年獨逸よりの同品輸入總量の13%に達し前年の11%に比するときは2%の増加を示す

○漢口鐵鑛輸出狀況(十二月十六日附在漢口高尾總領事報告) 鐵鑛石輸出邦商に日本 郵船及東亞通商の二あるが就中日本郵船は比較的多量を取扱はれ日本郵船は主として沈家營石灰鑛積出大冶鐵鑛石を東亞通商は沈家營積出、象鼻山鐵鑛石及礮口積出、鄂城鐵鑛石を取扱ふ當館證明に係る11月輸出量を見るに東亞通商取扱高は 12.160噸、鄂城鐵鑛 3.950噸、象鼻山鐵鑛 8.200噸なり。日本郵船取扱高41.960 噸右の内沈家營積出は 14.960噸、石灰鑛積出は 27.000噸なり

○佛國の國際經濟會議開催提議(十一月二十三日附在漢堡川島總領事報告) 國際經濟會議開催の必要、歐洲戰役の影響を受け世界の生産分配の分野に大變化を生し平和克復後既に滿 6 年に垂んとするも戦前に行はれたる秩序ある國際經濟交換の事態を再現するを得ず、詳言すれば (1)東歐諸國及露國は舊時の如く穀物を西歐に供給せざるのみならず却て國內工業の保護を計りて西歐の貨物を排斥し (2)西歐諸國は舊時の如く東歐及南米等に資本を供給するを得ざるが爲め是れ等諸國よりの穀物及原料品の供給は潤澤ならざるのみならず延て歐洲よりの移民を收容するを得ざるに至り (3)北米亞細亞濠洲等も亦戦前の如く歐洲貨物を需要せざるのみならず却て歐洲貨物の販路を侵すに至り (4)歐洲の

資本は殆んど北米等に移動せるに拘らず北米等は歐洲再建の資本供給に熱心ならず、勢ひ歐洲諸國は大體高利に苦むのみならず北米は歐洲よりの移民の入國制限に依り歐洲への間接的資金流入を妨げ(5)西歐工業國は伊佛白等爲替下落等一時的特別事情あるもの、外、戦時中の影響を受け工業労働者の過剰を見其結果比類なき失業者の増加あるも之れ再び容易に歸農せしむるを得ず(6)更に又歐洲は國境の變更と所謂新興國の簇生とより幾多の不經濟的國境設けられ而も其間に極端なる關稅及行政上の障壁樹立するに至りしに依り國際交通の自由を妨げ勢ひ各國の生産費をも高からしむるに至れり近き例はルールの骸炭もアルサスの鐵鑛とにより成立せる獨逸鐵工業はアルサスの割讓により鐵鑛の供給を國內の貧鑛乃至瑞典等不便なる方面より仰がざる可らず勢ひ生産費を高め之に反し佛國は鐵鑛を持餘し骸炭供給不足に苦むに至りしが如し斯の如き事態に在りては一方平和熱を鼓吹して國民的猜疑心を除去し國際的紛争の平和的處理方法を發達せしめて出來得る丈戰爭を防止すると共に他方向等かの方法により前記自殺的國際經濟競争を防止する方法を講ずるに非ざれば千萬の碧血を犠牲に供したる歐洲戦も徒爾たらざるを得ず此意味に於て國際經濟會議説は夙に各國労働團體仲間の主張となり今夏馬耳塞に開催の國際社會黨大會に於ても之れを高唱せるものありしが佛獨經濟接近論を以て名ある佛國前大藏大臣ルシュールは今次の聯盟總會に突如之が開催の爲聯盟に於て準備委員會を設くべき事を主張し労働理事會佛國代表ジョー等之に和し白羅馬尼、波蘭等は固より伊西南米諸國等擧げて之に賛同し只英國委員の反對に依り本年12月理事會迄で之が最終決定を留保し夫以前佛國は會議の要目に對する成案を作製する事となれり、蓋し此際國際的經濟協調により長大なる成果あるべきは佛獨の經濟接近に在り歐洲大陸諸國より云へば此種會議により多少なりとも國際間の經濟障壁を減少せしむるを得ば幸なり關稅問題の如き主權に最も關係あるものと雖も1906年のブラッセル砂糖協定の如き相當の成績を擧げたる實例あり又海上運賃に就ては既に各國船會社の間に世界的協定の存在する以上鐵一石炭其他の重要産業に對しては少くとも歐洲諸國間のみたりとも國際的競争防止を目的とする出産及販路に關する何等かの協定の成立必ずしも不可能ならずと思惟するものあるも無理からざるべく既に鐵ルールに關しては獨佛白英四國當業者間に殆んど國際協定の成立を見んとする形勢にあり又南中米諸國より云へば斯くして歐洲より機械等の形式より資本供給の途を開き併せて自己も産物の販路を確保するも不可ならずとなすなり然れども英國側より云へば假に佛國の注意により移民問題及戰債問題を除去せらるゝとするも此種經濟會議開催の際には必ずや殖民地の好まざる原料品の國際的自由供給乃至天然富源の自由開發の問題を伊太利等より提出すべく更に南米等よりは英國指導の下に在る海運トラストに對し海上航路獨占の非難も起るべく旁遲疑せざるを得ざるなり因に今次佛國提唱國際會議は前述の如く主として國際的經濟組織の安定にあるに付必ずしも右會議中に於て條約調印を目的とせず又同時に政府代表の外、世界の重要生産消費の代表者が會合し其協調空氣の下に何等か事業上の協定に達せんことを希望するものなり。國際經濟會議に對し日本の取るべき態度、然るに日本通商衡平待遇を唱へ來りたる當初よりの主張に依り此種會議に對しては固より之が成立を援助せざる可らざる

も米國は別問題とするも（固より米國は参加せざるべし）其効果を完全ならしむる上よりして英佛海外殖民地は勿論亞細亞及南米諸國も亦之れ参加せしむる事に努むべく然らざる限り日本も亦歐洲諸國とは立場を異にするを理由として如何なる協定にも餘り深入せざる事可なるべし尤も此種經濟會議を利用し帝國傳來の主張たる富源開發及其自由開放沿岸貿易範圍の制限輸出入制限禁止の撤廢殊に原料品の自由輸出穩當なる關稅率の制定二重課稅殊に船舶二重課稅問題の解決旅券査證の一般の廢止乃至各種經濟交通船舶問題に對する無條件最惠國待遇附與等の諸主張の實現を計る事に近づかしむべきは可なり依て本會議に對しては世界的經濟回復に對する措置を講ずるに付一臂の勞を惜まざると共に大體亞細亞南米諸國英領殖民地等と其態度を一にし自國の經濟發展を歐洲經濟回復の爲め犠牲に供するが如き事なきを要す

○英國鋳力製造業合同計畫 英國鋳力製造業者合同計畫の内容に付幾分の支障を生じ實施遲延せしが11月20日右に關する委員會開會せられ本計畫を承認すると同時に1926年初より實施の事に議決せり、而して本合同計畫の内容は未だ發表せざるも當業者に付聞知する處に仍れば、本合同の目的とする處は各製造業者間に(1)生産過剰を避け(2)販賣價格の切下を防止するにあり合同に加入する製造業者は其所有工場の機械1臺に付き英貨100磅宛の割合を以て出資を爲し之を合同の資金とす本年7月5日を末日とせる6ヶ月間の各工場の生産高を標準生産量と爲し合同委員會は市況に應じ全生産量を決定し之を各工場の標準生産量に基き按分し各工場の實際生産高を定むるものとす（全生産高の決定は毎月を單位とするものゝ如し）而して或工場は其按分せられたる實際生産高以上に生産せる場合は其超過部分に對し標準物1箱に付1志（但し當初の計畫には2志6片とあり）の割合にて合同機關に贖金するものとし反之或工場が注文寡少の爲め其按分せられたる實際生産高迄製造し得ざる場合は其差額に對し標準物1箱に付9片（當初の計畫にては1志）を合同機關より受入るゝものとせり目下英國の鋳力製造業者數は57社工場數79機械數約500と稱せらるゝが其内右合同に加入せる者の生産高は85%を含む

○八幡製鐵所大正14年12月中銑鐵產出額

出 銑 量 總 計
56,521.720

大正十四年十一月銑鐵市場在庫月報表

大正14年11月30日現在 三菱商事株式會社金屬部

市 場	持 主 別			合 計 噸	前 月 比 較 噸
	生産筋 噸	間屋筋 噸	消費筋 噸		
東 京	1,958	7,175	5,585	14,718	+ 318
横 濱	—	—	5,960	5,960	- 400
名 古 屋	—	2,507	1,860	4,367	- 326
大 阪	—	5,550	7,600	13,150	- 450
神 戶	—	3,100	60,720	13,820	- 1,490
阪 神	3,455	—	—	3,455	+ 680
門 司	—	777	1,260	2,037	- 616

長崎	—	32	432	461	+ 145
大連	29.934	6.333	870	37.137	—
函館	—	45	76	121	—
釜石	7.829	—	—	7.829	+ 363
室蘭	19.567	—	—	19.567	— 311
兼二浦	21.369	—	—	21.369	— 1.319
計	84.112	25.519	84.363	193.994	— 3.406
前月比較	— 259	— 1.157	— 1.990	— 3.406	—

大正十四年十一月 銑鐵市場在荷品種別表 (概數)

品 種	大正14年11月30日現在						三菱商事株式會社金屬部		合計	増減
	京濱	名古屋	阪神	九州	滿鮮	北海道	其他			
兼二浦	1.960	657	2.610	302	21.380	—	—	26.909	-2.386	
釜石	1.418	280	366	—	—	—	782	9.893	+ 589	
輪西	4.995	1.210	1.000	60	—	19.602	—	26.867	+2.168	
漢陽	—	200	580	32	—	—	—	812	- 500	
東鐵	—	—	256	—	—	—	—	256		
鞍山	2.300	910	3.850	645	32.591	—	—	40.296	+ 895	
本溪湖	820	570	37.583	280	3.805	—	—	43.058	-1.782	
仙人	80	—	—	—	—	—	—	80		
Cleveland	235	—	100	10	—	—	—	345	- 10	
Hematite	—	—	100	—	—	—	—	100	- 100	
Burn	1.000	100	2.050	360	530	—	—	4.040	+1.060	
Swedish	—	—	300	44	—	—	—	344		
Bengal	50	190	700	30	—	—	—	970	-1.200	
Tata	910	—	22.900	150	—	—	—	23.960	-1.430	
雜	6.910	250	8.030	588	200	86	—	16.064	- 710	
合計	20.678	4.367	80.423	2.500	58.506	19.688	7.829	193.994	-3.400	
	- 82	- 326	-1.260	- 471	-1.319	- 311	+ 363			

○鐵道納炭契約 明年度4月以降の鐵道省の買炭契約は例年の如く3月までには決定を見るはずで本月中旬からポツポツ始まる模様であるが、總數量は當年度とほぼ同額 340.350 噸見當でその内 10 萬噸以上納炭する向はやはり三井、三菱、滿鐵、平山、貝島、麻生、入山等で平均單價も當年度 11圓也 50 錢見當と見られてゐる、即ち本年1月よりいよいよ出炭制限が行はれてゐるが、各地の貯炭がまだ相當多い模様であるから平均單價は却て當年度より幾分下廻りを見るかも知れないと傳へられてゐる何れにせよ鐵道省納炭額は全出炭高の 10 %以上を占めてゐるからこれが納入値段は一種の市場標準相場と見られ、従つて各炭業者殊に常盤炭關係者は例年出炭額の 20 %以上も納入する關係上契約の成行きに深甚な注意を拂つてゐる。

○八幡製鐵持荷 (八幡發)八幡製鐵所の今年への持越ストックは板類 1 萬 5 千噸、丸鋼 4 萬 5 千噸、角平鋼 2 萬 5 千噸、山形鋼 3 萬 7 千噸、溝鋼 6 千噸、その他の形物 4 千噸、鋼材 2 千噸、

軌道 1 萬 5 千噸、軌道付屬品 2 千噸、その他雜品 5 千噸、合計 15 萬 6 千噸でその内 1 割弱は既に先物契約その他賣買決定されてゐるが、昨年 3 月 31 日現在の年度尻ストック 12 萬 6 千噸に比較して 3 萬噸の殖え方で、一方販賣方面は 13 年度 52 萬噸（中間製品 9 萬噸を含む）に對して 14 年度中に 64 萬噸を賣盡す見込みだが、昨年未までに 49 萬噸弱を賣放つたのみで、來る 3 月末までに残り 15 萬噸の始末は困難らしく市場のストックが少いとは言へ、昨年 11 月末現在で東京 5 萬噸、大阪 12 萬噸、神戸 5 萬噸を數へてゐるので、製鐵所の意氣込は目覺ましい景氣の反撥がない限り覺束ないものと見られてゐる。

○獨逸の製鐵トラスト（ロンドン國際四日發）=ニューヨークからの報道によると米國の金融業者デロン、リード商會は獨米鋼鐵トラスト設立を計畫してゐるとのことである、しかし消息通のいふところによれば獨米トラストの如きものが設立されるなどは事實である譯がなく現在のところ問題とするに足らない、何故かといふに獨逸國內においてすら鋼鐵トラストは今日實在してゐないからであると、尤も右のデロン、リード商會は自ら米國において製鐵會社を經營してゐるが今回巨額の資金を獨逸の鋼鐵會社へ貸すことになつたらしい、この結果獨逸製鐵會社は資金缺乏から救はれ合同反對のクルツプ會社を除きその他の大會社の殆ど全部を網羅する一大製鐵トラスト設立を促進するものと觀測される、しかし若し右の獨逸製鐵トラストが實現するに至らば前記の獨米トラストが設立されなくても獨逸トラストは自然デロン、リード系の米國製鐵會社と事業經營上提携をなすに至るものと觀察されるなほ前記の獨逸製鐵トラスト成立の曉デロン、リード商會が幾何の資金を獨逸に提供せんとするかその總額は公表されないが仄聞するところによると獨逸製鐵界の巨頭連は米國において 2,500 百萬磅乃至 3,000 萬磅（2 億 5,000 萬圓乃至 3 億圓）の借入れ交渉につき大分以前より盡力してゐた模様である。

デロン、リード商會の發表によれば同商會は 5 日社債 5,500 百萬弗（約 1 億 1,000 萬圓を賣出したが賣出し後 5 分間以内に應募超過となつた、右社債の名稱はナショナルキャツシ、レヂスター、ストックといふのであるが、右發行の目的は多分前電にいふ獨逸製鐵合同へ貸付るためであると思はれると尙ほデロン、リード商會について確めたところによると同商會は獨逸の製鐵合同に約 5,000 萬弗（1 億圓）を融通するはずである、右合同に加はるのは獨逸の三大製鐵會社即ちドイツエ、ルクセンブルグ會社、ゲルゼンキルヒネル會社、ポヒュームフエライン會社であつて各社年産能力左通り

社名	鋼鐵生産高	石炭生産高
ドイツエ、ルクセンブルグ	1,056,000	5,874,000
ゲルゼン、ケルヒネル	109,000	12,138,000
ポチューム、フエライン	493,000	2,235,000

尙ほ（ベルリン 14 日發國際）獨逸エツセン市に於て今回ライン・ウエストフワリヤ鑛山トラストが成立した、トラストに加盟した會社はラインエルベ會社、チツセン會社フェニツクス會社、ライン鋼鐵會社の 4 社である、新トラストは前記 4 社の工場全部は未だ包含して居らず、資本金も假りに

5 萬馬克としてあつて、ホンの一時的のものに過ぎない、其の目的は生産品が儲かる様にする事と生産費を減少することにある、前記 4 社が直ちに本式の合同を躊躇してゐるのは新トラストの課税問題が決せぬ故である。今の所では政府は課税する意向であるが、これが決した上でないと本式の合同は確定しない。

○八幡製鐵所の販賣部移轉 八幡製鐵所では懸案中の販賣部移轉は、官廳筋注文及び共同販賣成績に在りて今同東京市に移轉することになり、11 日發表したが之れと同時に現販賣部長山縣愷佐氏は外國駐在を命ぜられ、後任として理事立石信郎氏が推された、立石部長、鈴木營業課長以下約 10 名の所員は東京市に勤務し先物拂下げその他總ての注文契約に任じ、八幡では森田整理課長を主任とし主として製品の整理受渡と現品を見なくては出来ぬ契約をやるに止まることとなり、大阪にも駐在員を置き販賣上の進行を計ることとなつた。

左の事項に限り製鐵所本所で分掌するそうである。

- 一、短尺鋼、屑鋼及之に準ずるもの、販賣約定に關する事項。
- 二、硫酸アムモニア、ベンゾール及クレオソート油を除くの外副製品の販賣約定に關する事項等なり。

○北樺太の石炭會社 今回細目協定をなした北樺太石炭利權中北樺太石炭企業組合の契約せし地域は既報のごとく、ドウエ、ウラヂミロフスキー及びマーチの 3 箇所であるが、後 2 者は全然處女地でありドウエのごときも北京條約によつて繼續稼業をしてゐた場所ではなく、これまた新規に採掘しなければならないが、前記 3 箇所の埋藏量合計は約 4—5,000 萬噸と見積られてゐる、しかしロカトウイのごとき繼續稼業をなしてゐた地域も削除されたから、今回の石炭利權は固より大成功ではないと見るものが多い、なほ佐野組合はペトロフスキーを、塚原組合はエレクリンを交渉したが國營たるべきものとしてロシア側に拒絶され、たゞ坂井組合のみアグネオを獲たに過ぎない、尤も塚原組合に對してはロシア側よりニクレヴキツチ利權讓渡の提案があつたが、幾何の價値を有するか全然不明の地域であるから塚原氏も應ぜず、同氏は今なほモスコウにあつて折衝中との事である、なほ北樺太石炭企業組合ではいよいよ既定方針通り北樺太石炭株式會社の創立に着手することになり、組合員たる三菱（業務執行組合員）三井、澁澤、淺野、大倉及び住友の 6 社は不日第 1 回會合を催して創立準備に取りかゝることになつた、第 1 の問題たる資本金額は當初の計畫通り 1,000 萬圓に落付く模様で、たゞこの樺太石炭企業組合としては既約 500 萬圓ほど投資してゐる關係上、新會社に引續ぐ場合如何なる方法をとるか各方面から興味を以て迎へられてゐるが、前述の如く利權地域は處女地であるから投資額全部を以て現物出資となすことは恐らく困難であらうといはれてゐる、なほ新會社は北樺太石油會社と同様 3 月までには創立を見るだらうが坂井組合の合併問題は恐らく將來の問題として残されるだらうと推測されてゐる。

○東京鋼材減資 △東京鋼材株式會社は去る 22 日臨時總會を開き現在資本金 200 萬圓拂込済を

40 萬圓拂込み済(5分の1)に減資の件を決定した。

同社は大正 6 年に 100 圓の資本金にて創立し、7 年 300 萬圓に増資し 13 年 200 萬圓に減資し、今回更に大減資を斷行する譯である。右は大震災以後鋼材の騰貴により若干有利となつた同社の業況も本年に至り再び不良に陥り到底現状を以ては發展の餘地なきを悟つた結果と思はる。本月締切の下期も勿論損失を免かれぬであらう、然し同社の工場設備は小規模ながら相當整うて居り、茲で新資金を 5-60 萬圓も注げば充分復活の可能性を持つて居る。同社は現在三菱銀行より 200 餘萬圓を借入れ居るも利子さへ支拂ふ事の出来ぬ状態にあるが然も工場は前述の如く新資本を注げば相當働く力を持つてゐる。然も鋼材事業の前途は帝都復興と相俟て可なり有望視される、之れ三菱が今回同社の爲めに一肌脱ぐ事になつた以所であらう、前途遼遠ながら相當有望と謂ふべきである。

○米國鐵業者が獨逸品防遏對策を希望す 最近獨逸の鐵鋼業が急速の恢復を示し同國內における 1 ケ年の鋼鐵生産高が約 800 萬噸に達するに至つたので米國製鐵業者はその競争を恐れて居る、獨逸製鐵業者は既に極東、南米の市場を占め更に運賃關係その他で米國市場にも浸入せんとしてゐるので、米國當業者間にはこれが徹底的對策を必要とするといはれ、鐵價は今後必然的に變動するだらうと豫想さるるに至つた。

○國産振興會の各部委員決定 國産振興會の阪谷會長、倉橋、大山兩理事は 21 日午後 3 時から東京商業會議所に會合打合せの結果、來る 24 日開會の委員會に附議する協議案の作成方について阪谷會長から左の通り委員を常務、事業、調査の三部に分ちて指名することゝなつた。

常務	今泉嘉一郎	倉橋藤太郎	大塚 榮吉	山崎 龜吉	大山斐蹉鷹	藤原銀次郎
	鶴見左吉雄	中島久萬吉	宿利 英治	諸井 恒平	杉原榮三郎	(以上十名)
事業	高松 豐吉	田中 次郎	鶴見左吉雄	山本 留次	矢作 榮藏	藤田 謙一
	杉原榮三郎	加茂 正雄	(以上八名)			
調査	今泉嘉一郎	大塚 榮吉	河津 暹	田中 芳雄	長崎 英造	矢部規矩治
	小西 正二	鹽澤 昌貞	(以上八名)			

○米國製鋼會社鋼注文殘激増 (ニウヨーク九日發電)(國際)昨年 12 月末におけるユー・エス・スチール會社の鋼鐵注文 高は 503 萬 3,000 噸である、なほ昨年中の各月末殘高を示せば左の通り

(單位千噸)

月次	殘高	月次	殘高	月次	殘高	月次	殘高
一月末	5027	二月末	5285	三月末	4864	0 四月末	4447
五月末	4050	六月末	3710	七月末	3539	1 八月末	3513
九月末	3717	十月末	4109	十一月末	4582	2 十二月末	5033

○關稅定率法改正案 21 日の休會明けの衆議院へ提出される政府の關稅定率法中改正案は 19 日發表されたる内鐵鋼の部左の如し。

462 の 1 鐵 (別號に掲げたる特殊鋼を除く)

1 塊及錠			
甲 銑 鐵	每百斤	0.10	
乙 スピーゲルアイゼン、フェロマンガニース其 他の不可鍛性鐵合金	從價	1割	
丙 其の他			
丙ノ1 シートバー(ティンバーを含む)	每百斤	0.50	
丙ノ2 其の他	從價	1割5分	
2 條及竿(テ-形、アングル形等の形状を有する ものを含む)	每百斤	1.10	
3 レール(フイツシュ、プレートを含む)	每百斤	0.95	
4 ワイヤロッド(巻きたるもの)	從價	1割8分	
5 板			
甲 金屬を鍍せるもの			
甲の1 厚0.7ミリメートルを超えざるもの			
イ 珪素鋼板(全重量100分中珪素の重量1 以上のもの)	每百斤	0.30	
ロ 其の他	每百斤	1.95	
甲の2 厚3ミリメートルを超えざるもの	每百斤	1.40	
甲の3 其の他	每百斤	1.10	
乙 卑金屬を鍍したるもの			
乙の1 錫鍍したるもの(葉鐵及葉鋼)	每百斤	0.70	
乙の2 亜鉛鍍したるもの	每百斤	2.85	
乙の3 其の他	從價	2割	
6 線(卑金屬を鍍したると否とを別たす)	從價	1割8分	

7 リードワイヤ	從價	5分
8 リボン	從價	1割
9 帶(捲鐵)	從價	5分
10 バラゴンワイヤ(卑金屬を鍍したると否とを別 たす)	從價	1割5分
11 線索及撚合線(卑金屬を鍍したると否とを別た す)	每百斤	5.50
12 バーブドツイストワイヤ	從價	2割
13 筒及管(別號に掲げざるもの)		
甲 金屬を鍍せざるもの		
甲の1 エルホ-及ジョイント		
	從價	1割8分
甲の2 其の他		
イ 鑄たるもの	每百斤	1.00
ロ 其の他		
ロの1 内徑150ミリメートルを超えざる もの	從價	1割8分
ロの2 其の他	從價	1割5分
乙 卑金屬を鍍したるもの	從價	2割
14 屑及故(改造用のみに適するもの)		無稅

462 の 2 特殊鋼

1 全重量100分中ニッケル、クロム、タンクス テン、モリブデン又はコバルトの重量0.5以上若 は珪素又はマンガンの重量1、以上を含有する塊、 錠、條、竿及板(金屬を鍍せざる珪素鋼板にして 厚0.7ミリメートルを超えざるものを除く)	從價	1割8分
2 全重量100分中炭素の重量0.7以上を含有し目燐 及硫黄の各重量0.02以下の塊、錠、條及竿	從價	1割8分

○關稅引上の代りに製鐵業に補助 鉄鐵關稅は1月18日の閣議で据置きに決定した結果製鐵問題に關しては別途の補助方法を講ずることに決したが、その補助金交附の要綱及び方法は大體次の如くである。

先づ現行の製鐵獎勵法を改正して原鑛石より鋼材を生産し得るまでの工場設備を有する會社に對して、製鋼能力噸5圓の割合で補助金を交附するのである。

従つて今度の新鐵鋼政策實現の結果としては原鑛石を使用して製鋼の事業を営む内地會社に限り補助金を交附するので、既に鉄鐵化してゐる内外材料を以て事業を営むものは除外される譯である、その割合は大體噸當り5圓20錢であるから、市價の約10%見當になる譯である。而して右補助金交附の資格を具備するものは釜石鑛山、日本製鋼、三菱製鐵の三社で、其の製造能力は合計20萬乃

至 25 萬噸であるが補助金交附期間は、5 年若しくは 10 年の更改期を設けることゝならう。

○製鐵補助金追加計上 別項の如く銑鐵關稅を引上げぬ代りに製鐵補助金を交附するに決したが、そのために商工省は明年度追加豫算としてこれが經費約 125 萬圓を計上要求することとなつた。

○第五十壹議會に於ける製鐵問答 問者武藤山治君(前略)次に私が御伺ひし度いのは製鐵業の救濟であります、政府の今回執られんとする所の保護救濟の方法を見ますと云ふと、原鑛より鋼材を製造する者に對しましい、噸 5 圓 20 錢の補助金を御與へになると云ふ事と、原鑛輸入管理を行ふに在ると云ふ事でありませう、輸入管理を行はれると云ふ事は手加減が出来ると云ふ事になりますから、關稅引上よりも將來私は是れより大なる危險を感ずるのであります、私が之に對する質問は原鑛より鋼材を製造する者は三井、三菱、大倉より外に無いのであります、何が故に他の銑鐵を買ふて、さうして鋼材を製造する者を除外せられたか、而して單に三井、三菱、大倉より外に、此補助金を受けられぬ様な規定を設けられるかと云ふ點であります、又補助金を受ける所の會社は、會計検査院法の規定に依つて將來必ず——當然會計検査院の検査に付せられると私が思ひますが、政府は必ず、之を會計検査院の検査に御付しになるや否や、之を御伺ひし度いのであります、又製鐵保護救濟なるものは、一部の富豪及政商の保護救濟の爲めになるものでありまして、我國産業の全體から見ますれば、是れ以上私は有害無益なる保護獎勵なるものは無いかと考へるのであります、現に製鐵業者と等しく申しましても、大阪地方に於ける所の製鐵會社は戦後相當なる整理を遂げ、今日は一割の配當を爲しつつある者もあるのであります、然るに多くの製鐵會社は政府より保護救濟の下らん事を待ち設けて、少しも整理を努める事なし、今日迄其業務を發展せしめる事が出来ないのであります、斯の如く一部の人人を、政府が國の費用に依つて保護救濟せらるゝと云ふ事でありましたならば、私共は多年憲政會内閣に囑望したる所に對して洵に意外の感を懷かざるを得ないのであります。(以下略)

(答)片岡商工大臣(前略)次ぎに鐵の問題であります、此鐵問題は冒頭に鐵を救濟する——日本の鐵を救濟する、是れは甚だ宜しきを得て居らぬと云ふ前提の下に御述べになつた様に考へます、併し中には多少聞き取り難き場合もありましたから、或は私が誤解したかも知れませぬ、若し間違ひましたらば後で御質しを願ひます、御言葉に依りますれば鐵の事業などと云ふものには、餘り重きを置かせられぬ様に私に直覺したのであります、鐵の自給自足を要する事は、學理の根本こそ多少違ひませうが、前段述べられた所の精神と余り違ひはない即ち其國に於ける基本的工業であります、是れが其國に於て自給自定が出来ると出来ざるとは、國の存立の上に大影響を及ぼし來ると云ふ事は分り切つた事である、是に於て高橋農商務大臣の時代に此鐵事業をして自給自足の途が進められるや否やと云ふ問題に付いて、調査會なるものを設けられたのであります、其調査會の内容を私は今此所に申し上げ様とは存じませぬが、大體に於て自給自足は講じ得られる、而して將來資本を合同して官民合同し、半官半民の方針を執る方が宜しい、其道程を進める間に是れ是れの方法を講ずるが宜しいとして、二三の事項を示されて居るのであります、私が其後を承けまして、其調査會の調査に基いて實地を篤

と調査致しましたが、大體に於ては私は其調査會の決議は當を得て居ると思つて居ります、去ながら今日の場合に於て資本の合同を爲して、半官半民の經營を爲すと云ふが如き事が果して出来るや否やと云ふ、實際問題から考へて見ましたならば、御承知の通り一つの銀行の合併を致しましても、中々容易な事ではないのでありますが、況や今日の製鐵所なるものは一つの作業會計になつて居る者でありまして、其内容は國民には知れて居らぬのであります、是れはどうしても先づ以て獨立會計なるものに致して、而して私の希望する所は各會社の決算報告の如く資産、負債、貸借對照表の如き位のものが出来る様に致しまして、何時資本の合同を爲す必要ありとしても、其の土臺の出来る様にすることが第一であると考へて居ります、是れと同時に製鐵所が如何に職員が勉強を致して、色々な工夫を致して利益を生ずる様に致してもそれは大藏省の方に收まつてしまつて、製鐵所の方の事業に對して何等の面白味も與へない、斯云ふ事では是れは仕事と云ふものを奮發するものでない、矢張自分のした仕事には相當の成績を示し、其成績に對しては相當の酬ひも受くる、斯う云ふ事になつて來てこそ初めて仕事と云ふものゝ成績が擧るのであります、是れに於て其一般民間の經驗した所のものと、是れは理に於て同じ事であるから、此意味に於ても會計法は改正しなければいけぬと考へて居ります、言換へれば製鐵所で相當の儲けが出来たならば、其儲けた金は又其事業の擴張に與へられる、斯ふ云ふ風になつて來れば仕事に従事して居る者は一種の樂みを持つ事が出来ると私は思つて居るのである、斯様にして製鐵所の土臺を拵へ、其れから一般の製鐵業者に對しては、別に救濟などと云ふ考は持つて居りませぬ、今日の所で極く悪いと私が考へて居りますのは、甲の製鐵所で一つの物が出來て大變是が販路が擴まつて來ると云ふ事になると、乙でも拵へる、丙でも拵へる、遂に其品物は製品過多となり、競争を生じ、品物は自然に競争の結果下る、其終りが粗製濫造となる、斯云ふ事が我國の全體を通ずる通弊であると思ふ、其れ故に製鐵所に對しても此弊を除く爲には、先づ各製鐵所の製品の分野を定める、此處は何の品物をどれ丈拵へる、何處ではどれ丈拵へると云ふ事を極めまして、それより以上出来る者は之れを海外に出すと云ふ途を執る斯う云ふ風に内で互に競争する事を避けなければならぬ、即ち製鐵の分野を定め、それから又原料を買入れる事に付て、之を甲の處からも乙の處からも手を出して行く、今度原料を提供する方面はそれ程多くはない事は御承知の通りであります、其の少ない方面に向つて其處からも此處からも手を出すと云ふ事は、結局物を糶上げると云ふ嫌が生ずる、それよりは矢張原料購入に對しても共同の力を以て、一手に於て此れを買ふ方法を講ずる方が宜しいと考へる、それから又製品に對しても、民間の製鐵業者は資金の供給を急ぐと云ふ事は當然で御座いまして、自然困難を感ずるのでありますから、是に於て製品の種類に——悉くには及びますまいが、種類に依つては共同販賣の途を開く、是等の途を講ずる事は當業者の自發的の考究に依つて定めたら宜からうと云ふ事を私は示したのであります、此方針に基いて當業者が協議を重ねて、今や其途に進行しつつあるのであります、唯先刻御述になりました鉄鐵に對して1噸5圓20錢云々と云ふ御言葉がありました、是はどう云ふ所に根據を置いて御論じになりましたか知りませぬが、私が一つ茲に考

へて居りまする所のものは、我國の製鐵は銑鐵は此所で拵へる、又一方の所からは鋼片、鋼塊を買受けて、さうして仕事をするのでありますから、一遍沸したものを冷して又之れを沸かして使ふ、斯う云ふ事に相成ますから、大變製品が高く付くと云ふ事になりますから、どうしても此所で、獎勵しなければならぬと思ひます事は、先づ鑛石から始めて繼續的に鋼材迄及ぶと云ふ工場を拵へる者に對して、相當の獎勵金を與へる途を講じたいと思ひます、併しながら是が別に富豪者を保護するとか、富豪者を目印にすると云ふ事は無い株式で多數の力で拵へて居る者が御座いまして、それで宜しいのである、又個人の仕事として初から熔鑛爐を拵へて、段々引續いて精鍊迄及ぶと云ふ事で御座いましたならば、是れ洵に結構であります、今は方々に力が分れて居つて、一遍沸したものを冷して、又冷したものを沸すと云ふが如き事をやつて居りますから、其弊を防ぐ爲めには此途を獎勵しなければならぬと云ふ事を考へまして、今や其方法に付ては研究中であります、是丈の御答を致します。

大正十四年十二月銑鐵市場在庫月報表

大正14年12月31日現在 三菱商事株式會社金屬部

市 場	持 主 別			合 計	前月比較
	生産筋	問屋筋	消費筋		
東 京	2,510	7,540	7,610	17,690	+ 2,972
横 濱			6,140	6,140	+ 180
名 古 屋		2,290	1,710	4,000	- 367
大 阪		11,450	8,900	20,350	+ 7,200
神 戸		3,100	56,900	60,000	- 3,820
阪 神	2,873			2,873	- 582
長 崎		32	482	514	+ 50
門 司		569	1,660	2,229	+ 192
大 門 連	29,934	6,333	870	37,137	1
函 館		45	76	121	1
釜 石	8,854			8,854	+ 1,025
室 蘭	18,131			18,131	- 1,436
兼 浦	8,258			8,258	- 13,111
二 計	70,590	31,359	84,348	186,297	- 7,697
前 月 比 較	- 13,522	+ 5,840	- 15	- 7,697	

大正十四年十二月銑鐵市場在荷品種別表 (概數)

三菱商事株式會社金屬部

品 種	京 濱	名 古 屋	阪 神	九 州	滿 鮮	北 海 道	其 他	合 計
兼 二 浦	4,800	1,090	7,760	184	8,269			22,103
釜 石	1,800	150	50				8,854	10,854
釜 輪	4,800	1,340	1,950	30		1,166		26,186
漢 陽		150	1,910	32				1,192
東 鐵			256					256
鞍 山	2,250	530	3,740	1,495	32,591			40,606
本 溪 湖	850	420	37,917	250	3,995			43,242
仙 人	80							80
Cleveland	230		100	10				390
Hematite			20					200
Burn	800	30	1,950		530			3,310
Swedish			209	44				244
Bengal	50	90	400	30				570
Tata	850		20,100	200				21,150
雜	7,270	200	7,690	468	200	86		15,914
合 計	23,830	4,000	83,223	2,743	45,395	18,252	8,854	186,297